

平成 22 年 3 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (B)  
研究期間：2007～2010  
課題番号：19330126  
研究課題名 (和文) 大規模コホート調査に基づく気なる子どもへの早期支援プログラムの開発研究  
研究課題名 (英文) Development and Evaluation of Early Intervention Program for difficult Children by a Large Cohort Study  
研究代表者 安梅 勅江 (ANME TOKIE)  
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授  
研究者番号：20201907

研究代表者の専門分野：発達保健学  
科研費の分科・細目：社会学・社会福祉  
キーワード：気なる子ども 早期発見 早期支援

### 1. 研究計画の概要

経年的な子どもの発達、社会適応、健康状態、問題行動の発現への影響を踏まえ、科学的な根拠に基づく「気なる子ども支援プログラム」を開発し、実用化のためのモデルを提案することを目的とする。

### 2. 研究の進捗状況

気なる子どもの特性別に発達の軌跡と関連要因に関する学術的な知見を得るとともに、すでに開発済みの「保育の質の評価指標」に「気なる子ども支援プログラム」の内容を反映し、保育園、認定子ども園など、幼児期の支援機関における気なる子どもへの支援の充実を図った。

保護者と子育て支援専門職の気なる子どもの支援に関する実態把握、「気なる子ども」の社会性の発達軌跡と関連要因に関する既存データ追加分析を行った。

分析対象は全国の0歳～6歳児と保護者約33,000組であり、毎年3,000名ずつ平成11～21年の11年間パネルコホート研究を継続したデータである。調査内容は、保育環境、家庭環境、子どもの発達状態、健康状態、社会適応、問題行動、家族と子どもの属性などである。子どもの社会性の発達の軌跡を把握し「気なる状態」の統計的な根拠を得るため、子どもの特性別に発達の軌跡と関連要因について分析した。

具体的には、家庭環境要因（保護者とのかかわり、友人とのかかわり、社会的なかかわり、安全性、制限や罰の回避状況など）、保育環境要因（保育利用時間、保育開始年齢など）、保護者特性要因（周産期からの保護者のストレス、健康状態、就労、年齢など）、

子ども特性要因（身体・精神面の健康状態、気質など）、家族特性要因（家族構成、きょうだいなど）、地域サポート要因（子育て支援の状態、連携など）の把握とともに子どもの社会性の発達を3つの因子に類型化したものにつき妥当性を検証し、今後の海外研究と比較検討が可能な客観的な評価手法を提案した。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。  
計画通りに研究を進めており成果を得ている。

### 4. 今後の研究の推進方策

開発した評価方法に基づきフィージビリティ向上のためのフィールド調査を行う予定である。

### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計11件）

- ① Anme T., et.al, Trajectories of social competence by using Interaction Rating Scale(IRS) as an evidence-based practical index of children's social skills and parenting, Journal of Epidemiology, 20, 419-426, 2010, 査読有
- ② Tong L, Anme T., et.al, Relations of children's individual factors of intelligence development to the emotional and behavioral problems of first grader, Journal

of Epidemiology, 20, 466-471, 2010, 査読有

- ③ Tanaka E. Anne T. et.al, Implication of social competence development among thirty-month toddlers: focused on theory of mind, Journal of Epidemiology, 20, 447-451, 2010, 査読有
- ④ Tomisaki E. Anne T. et.al, Social competence development and sleep habits: longitudinal perspective, Journal of Epidemiology, 20, 435-440, 2010, 査読有
- ⑤ Anne T. Segal U. Implications of Japan's center- based night care: A one-year follow-up, Early Childhood Education Journal, 35(3), 293-299, 2007, 査読有

〔学会発表〕(計 31 件)

- ① 安梅勅江、篠原亮次、杉澤悠圭、童連、田中笑子、伊藤澄雄、石井享子、子どもの社会能力評価「かかわり指標」からみた発達障害児と被虐待児の特徴、第 67 回日本公衆衛生学会学術集会、2008. 11. 5-7 福岡
- ② 篠原亮次、杉澤悠圭、童連、田中笑子、安梅勅江、山川紀子、前田忠彦、山縣 然太朗、18 か月児の社会能力に対する 4 か月および 9 か月時の育児観「ほめること」の影響、第 67 回日本公衆衛生学会学術集会、2008. 11. 5-7 福岡
- ③ 篠原亮次、杉澤悠圭、童連、田中笑子、渡辺多恵子、恩田陽子、鹿野緑、安梅勅江：学前児の社会的スキルと広汎性発達障害(PDD)との関連、第 21 回日本保健福祉学会学術集会、2008. 11. 8 鹿児島
- ④ 杉澤悠圭、篠原亮次、童連、田中笑子、安梅勅江、山川紀子、前田忠彦、山縣然太朗、子どもの社会能力評価「かかわり指標」の信頼性、妥当性の検討、第 21 回日本保健福祉学会学術集会、2008. 11. 8 鹿児島

〔図書〕(計 5 件)

- ① 安梅勅江編、子育て・子育てエンパワメント—子育て環境評価と虐待予防—、日本小児医事出版社、96 頁、2009
- ② 安梅勅江編、気になる子どもの早期発見・早期支援—「かかわり指標」を活用した根拠に基づく子育て・子育て支援に

向けて—、日本小児医事出版社、60 頁、2009

- ③ 安梅勅江編、保育パワーアップ講座 活用編、日本小児医事出版社、172 頁、2008
- ④ 安梅勅江編、保育パワーアップ講座、日本小児医事出版社、114、2007